

研究・調査報告書

報告書番号	担当
301	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
Nutritional epidemiologic study of Satsuma mandarin intake and lifestyle-related diseases prevention 温州ミカン摂取と生活習慣病予防の栄養疫学的研究	
執筆者	
杉浦実, 小川一紀	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
果汁協会報 Page.1-13 (2011)	
キーワード	
生活習慣病、温州ミカン	
要 旨	
<p>欧米を中心とする栄養疫学研究により果物や野菜摂取が癌や循環器系疾患の予防に有効であることが明らかにされている。ミカンがどのような健康効果を有するのか、特にミカンのβ-クリプトキサンチンに着目してミカン産地である住民約千人を対象にした栄養疫学調査（三ヶ日町研究）を行った。ベースライン調査は2003年に健診時に書面でインフォームドコンセントが得られた886名、2005年の健診で新たに同意が得られた186名の合計1072名を対象とした。被験者は自記式問診票調査等を面接で実施し、空腹時採血を行い、栄養摂取状況、肝機能、インスリン抵抗性、動脈硬化、骨密度、メタボリックシンドローム（MetS）発症等について調べた。アルコール摂取によるγ-GTPの上昇と血清中β-クリプトキサンチンの関連について調べたところ、エタノール摂取量が多いほどγ-GTP値は上昇したが、血清中β-クリプトキサンチンレベルが高いとγ-GTP値が低く保たれていた。また、高血糖状態では酸化ストレスが増大して肝細胞へ障害が及ぶと推測され、高血糖状態でALT値上昇が観察されたが、血清中β-クリプトキサンチンレベルが高いとALT値が低く保たれていた。この他、血清中β-クリプトキサンチンレベルが高いとインスリン抵抗性、動脈硬化、骨粗鬆症リスクが低くなることが確認された。</p>	